

運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる学習指導の工夫

～基本的な動きづくりとステージ型の学習過程を取り入れた「幅跳び」を通して～

南城市立大里南小学校教諭 勢 理 客 貴 之

I テーマ設定の理由

学習指導要領解説の体育編によると、小学校教育における体育科の果たす究極的な目標は、「楽しく明るい生活を営む態度を育てる」とある。目標達成の手立てとして、生涯にわたって運動やスポーツを豊かに実践するための資質や能力の育成が求められている。そのためには、児童の能力・適性、興味・関心等に応じて、運動の楽しさや喜びを味わわせ、自ら考えたり工夫したりしながら運動の課題を解決する等の学習を工夫していかなければならない。

本学級の児童は、グループで協力して行うゲーム領域は進んで活動しているが、個々の力が発揮される走・跳の運動では、運動を得意とする児童は主体的に活動しているが、苦手な児童は、興味を示さず、指示されたことに従う姿が見られた。グループで話合いの時間を設定しても何をポイントとして教え合えばいいのかが分からず、技術の向上や関心の高まりには結びつかなかった。

これまでの指導を振りかえると、陸上運動につながる領域において、運動の特性につながる基本的な動きを身に付けることなく練習中心の単調な学習過程になっていたため、友だちと関わる楽しさや相手と競争する楽しさ、自分の課題を解決し、動きを身に付ける楽しさ等を味わわせることや、目的意識を持って学習に取り組ませる指導が不足していた。

そこで、本研究では、幅跳びの学習において、幅跳びの運動につながる基本的な動きを体験させる中で運動の楽しさに触れさせるような工夫と、児童の好むグループ対抗の競争を組み込み、未確定な勝敗を競うことによって、期待感を持たせる。さらに、自己の課題を見付け、動きのポイントを自主的に選択させることで、課題を解決することにより運動の楽しさを味わい、運動に対する意欲を高めるよう工夫する。

これらの学習指導を通して、児童が、思いっきり体を動かし、友だちと仲良く関わり、自ら課題を決定し、その解決に向けて取り組むことで、運動に親しむ資質や能力の基礎を育てることが出来ると考え本テーマを設定した。

II 研究仮説と検証計画

1 研究仮説

「幅跳び」の学習において、下記のように運動の特性にふれさせる工夫をすることで、運動に親しむ資質や能力の基礎が育つであろう。

- (1) 基本的な動きづくりの場を設定し、幅跳びにつながる基本的な動きを体験させる。
- (2) ステージ型の学習過程を設定し、幅跳びの楽しさである競争と動きのポイントを身に付けさせ、達成感を味わわせる。

2 検証計画

検証授業の対象 : 南城市立大里南小学校 3年4組 30名			
① 検証授業	検証場面	検証の観点	主な検証方法
	導入：基本的な動き運動 ねらい1：グループ対抗 幅跳び競争の場 ねらい2：動きのポイントを練習する場	・基本的な動きづくりの場を工夫することで運動への関心が高まったか。 ・競争のルールを工夫することで競争する楽しさを感じられたか。 ・動きのポイントを身に付けることに挑戦する意欲がみられたか。	・授業観察 ・児童の発言や発表 ・ワークシートの記述 ・幅跳びの記録 ・自己評価
② 授業実践 前後の調査	・体育意識アンケートの実施 事前(平成27年1月) 事後(平成27年1月) ・実態調査の実施 (平成27年1月)		・アンケートの比較・分析 ・実態調査の比較・分析
③ まとめ	運動に親しむ資質や基礎を育てることにおいて ・基本的な動きづくりは有効であったか ・ステージ型の学習過程は有効であったか		・上記の結果

Ⅲ 研究内容

1 運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる

運動に親しむ資質や能力とは、小学校学習指導要領解説の体育編によると「運動への関心や自ら運動をする意欲、仲間と仲よく運動をすること、各種の運動の楽しさや喜びを味わえるよう自ら考えたり工夫したりする力、運動の技能等を指している。」また、資質や能力を育てるためには、「児童の能力・適性、興味・関心等に応じて、運動の楽しさや喜びを味わい、自ら考えたり工夫したりしながら運動の課題を解決する等の学習が必要である。」と述べられている。

体育の授業において、運動する楽しさを味わわせるためには、どのように運動の特性に触れさせるかを考え、運動への関心を高めさせるための場づくりを工夫し、運動について話し合う場を設定し仲間と運動することの楽しさを見付けさせ、運動量を確保しながら運動技能を高めることが大切だと考える。

能力差に左右されることがないように競争のルールを工夫し、グループで対抗することで、みんなで協力し、勝負することの、運動の楽しさや喜びを味わわせたいと考える。自ら課題意識を持たせるために、めあてとなる動きのポイントを絞ることで、課題を明確にする工夫を行いたい。

2 運動の特性について

学校体育授業事典(1995)の中で赤松喜久氏は、運動の特性を「各運動に固有の性質や特徴のこと。」と述べている。荒川治氏は、幅跳びの特性を「助走して踏み切り、どれだけ遠くへ跳べるかを競争したり、記録に挑戦したりすることが楽しい運動である。」と述べている。さらに、杉崎憲男氏は、幅跳びの運動構造を「幅跳びは、助走ー踏み切りー空中動作ー着地という運動構造からできている。」と述べている。このことから幅跳びにおける運動の構成は「助走」と「踏み切り」と「空中姿勢」と「着地」の四つととらえることができる。よって、本研究では、児童にその四つの運動構造の特性を理解させる工夫としてスポーツ・オノマトペを活用する。藤野良孝氏(2011)によると、運動・スポーツ領域で活用されている擬音語・擬態語のことをスポーツ・オノマトペと呼んでいる。例えば、サッカーのターンしてシュートの際に「クルッと回ってドンと打つ」と表現する擬音語を活用する等である。スポーツ・オノマトペの利点は、簡単な表現で動きをイメージさせやすいことがあげられる。長い説明よりも、その利点を活用して短く、分かりやすく伝えることで、児童が動きをイメージしやすくなり、目的を持って練習できると考える。

具体的に、幅跳びの四つの動きのポイントを以下のように表現し、イメージさせる。「助走」では、スピード、リズム「タ・タ・タン」を意識させる。「踏み切り」では、「パン」と音を鳴らすイメージで地面を強く蹴るようにさせる。「空中姿勢」では、ひらがなの「ん」の形を意識させる。「着地」は膝を曲げて両足着地を意識させる。

3 基本的な動きづくりについて

(1) 基本的な動きづくりの意義

小学校学習指導要領解説の体育編によると、「運動する子どもとそうでない子どもの二極化の傾向や体力の低下傾向が依然深刻な問題となっている。」と述べられている。その解決策として「すべての運動領域で適切な運動の経験をさせること」があげられており、小学校中学年段階では、「運動種目として成立する以前の基本的な動きを身に付けること」が求められている。そこで、幅跳びにつながる陸上運動の基本的な技能を身に付けさせるために、短い時間で、だれでも、楽しくできるような基本的な動きづくりの場の設定を工夫する。

(2) 幅跳びと基本的な動きづくりの関連とその工夫

学校体育授業事典(1995)によると、岡野進氏は、陸上の指導において「腰の位置を高く」することを指導のポイントとして取り上げている。そこで、腰の位置を高くすることを意識した、幅跳びにつながる基本的な動きを基本的な動きづくり運動に取り入れる。ラダーやミニハードル等を用いて走る動き、ケンケンパ・大股ジャンプで走ってきて踏み切る動き、踏み台ジャンプでは、空中姿勢の「ん」の形を意識、ロイター板では、幅跳びに直接つながるふわっと体が浮き上がるような感覚を体験させることをねらうこととする。

4 ステージ型の学習過程について

(1) ステージ型とは

学校体育授業事典(1995)によると、関川正己氏は、ステージ型について「すべての子どもに速さや距離・高さを競い合う競争型の運動から入り、記録への興味関心の高まりに応じて達成型の学習に移行するように学習を組織することが大切である。」と述べている。ステージ型とは、ある一定の時間を第1ステージ、第2ステージというように、まとまった時間の帯を「ステージ」と表し、段階的に高めていく学習過程のことである。ここでは、第1ステージを「競争型」、第2ステージを「達成型」とし、1時間のなかで大きく2つの学習過程を取り入れる。第1ステージの「競争型」では、グループ対抗の競争を通して幅跳びの楽しさを味わわせるようにする。第2ステージの「達成型」では、動きのポイントを示し、個別に課題を設定し、解決に向け努力するなかで、幅跳びの楽しさを味わわせるようにする。

(2) 競争型の工夫

学校体育授業事典(1995)によると、関川正己氏は、競争型について「どの子どもにも運動の楽しさを味わわせるために個の違いに応じた学習活動を組織することが大切である。」と述べている。よって、個の違いが勝敗に影響することを少なくするために、幅跳びの記録そのもので競争させるのではなく、立ち幅跳びの記録を基準に、幅跳びの記録との差をその児童の得点とすることで、運動ができる児童も、そうでない児童も、同じスタートラインで幅跳び競争をすることができるように工夫する。また、個人競争にはせずに、グループ競争にすることによって、仲間との関わりを持たせるようにする。

(3) 達成型の工夫

学校体育授業事典(1995)によると、関川正己氏は、達成型について「学習のめあてや解決方法は、一人ひとりの学習の準備状況によって異なるので、自分の力に合っためあてを立てさせ、そのめあて達成に合った練習方法と活動の場を工夫させることが必要である。」と述べている。

動きのポイントに関して、自主的に課題を設ける際に、幅跳びの四つの動きのポイントを、スポーツ・オノマトペで意識させることで、具体的な課題とさせた。その際、赤白帽子のかぶり方で自分の課題の決断をさせることで、どのポイントに挑戦しているかを可視化できるようにし、そのポ

イントに応じて教師の声かけができるようにする。また、児童同士もアドバイスし合える時間を確保する。

IV 検証授業

1 単元名 走・跳の運動 「幅跳び」

2 単元の目標

- (1) 短い助走から踏み切って跳ぶことができるようにする。【技能】
- (2) 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、運動する場や用具の安全に気をつけたりすることができるようにする。【関心・意欲・態度】
- (3) 自分の力に合った課題をもち、動きを身に付けるための運動の行い方や競争の仕方を工夫することができるようにする。【思考・判断】

3 運動の特性と児童

(1) 一般的な特性

- ① 助走を生かして力強く踏み切り、どれだけ遠くに跳べるかをめざす運動である。
- ② 友だちと競争したり、動きのポイントが身についたりすることが楽しい運動である。
- ③ 助走、踏み切り、空中動作、着地の四つの動きのポイントを身に付けることで遠くへ跳べる運動である。

(2) 児童から見た幅とびの楽しさ

- ① 自分の課題を見付け、解決すると記録が伸びる運動である。
- ② ふわっと体が浮き上がる感覚を身につけると楽しい運動である。
- ③ 友だちと協力したり、学び合いをしたりしながら活動すると楽しい運動である。
- ④ 友だちと競争すると楽しい運動である。
- ⑤ 遠くに跳べたり、自己記録を更新したりすると楽しい運動である。
- ⑥ 「走力」「跳躍力」との相関関係が高いため、単純に競争すると運動を苦手とする児童の意欲が薄れる運動である。
- ⑦ 記録が伸びないと意欲が薄れる運動である。

4 児童感

児童の記録に対するこだわりは強く、1学期の長縄大会では、他のクラスの記録を常に意識し、その記録を超えるような目標を設定し、クラス全員が団結して練習に楽しく取り組む姿が見られた。体育の学習では1学期からワークシートを活用し、めあてを持たせ、自己評価をする形で学習に取り組んできたため、浮く・泳ぐ運動の時は、自分がどれだけ足をつけずに進めたか等、記録の伸びを毎時間の楽しみにして学習に取り組む姿が見られた。2学期に行われた運動会でのリレーでは1位、長縄跳び大会では準優勝する等チームワークのよさも見られる。勝ちたい意欲にあふれている児童も多い。

体育に関する意識アンケートでは「幅跳びは好きですか」の問いには「好き・どちらかというが好き」と答えた児童が81%だった。これは、低学年の時の走・跳の運動遊びが楽しく活動できたからだと考える。「競争することは好きですか」の問いには、「好き」、「どちらかというが好き」と78%が答えた。また、「技術が上達することは好きですか」の問いには、「好き」、「どちらかというが好き」と85%が答えた。アンケートから、競争や技術が上達することが好きな児童が多くいることで、ステージ型の指導を行えば児童は意欲を持って活動すると考える。

5 指導感

幅跳びの興味・関心を高めるために、導入の段階で児童に身近な6年生と卒業生の幅跳びを行っている動画と幅跳びの世界記録保持者の動画で、幅跳びの運動のイメージを具体的なものとしてとらえさせるようにする。走・跳の運動の幅跳びは、1年生のころに幅跳び遊びとして触れただけなので経験にあまり差はないと考える。しかし、日頃から運動している児童とそうでない児童では走力や跳躍力に大きな差が出てくる時期でもある。そこで、本単元では、幅跳びの基本的な動きを取り入れた、

基本的な動きづくり運動を通して幅跳びの動きづくりをさせる。また、グループ対抗の競争を入れることにより、グループ全体で勝つ喜びや負ける悔しさを味わわせるよう設定する。それによって、個人としての課題意識を高め、動きのポイントを実習する場では、競争に勝つためにグループ同士でアドバイスし合う姿が期待でき、それぞれの個に応じた動きのポイントの課題を見つけて練習することができるのではないかと考える。

(1) 場の工夫

- ① 基本的な動きづくり運動で幅跳びに必要な動きを取り入れる。好きな動きからスタートする等ゲーム感覚で楽しんで取り組めるようにする。活動時間を意識させるためにBGMを活用し、曲の始まりでスタートし、曲の終わりで運動の終了とする。
- ② グループ対抗による競争の場を設定し、勝敗を楽しむようにする。立ち幅跳びの記録を基準に、幅跳びの記録との差を得点化し競争する。
- ③ 動きのポイント練習の場を設定し、グループでアドバイスし合い、教え合い、協力しながら楽しく活動できるようにする。
- ④ チャレンジしている動きのポイントが分かるように帽子のかぶり方で可視化ができるように工夫した。「助走」は赤、「踏み切り」は白、「空中姿勢」はつば折るかぶり、「着地」はかぶらないとする。

(2) 指導の工夫

オリエンテーションにおいて、図2に示した、幅跳びの動きのポイントを明確に伝えることで、児童の目的意識を高め、常時掲示することで動きのポイントを意識させることへつなげる。

助走	○スピードを高める。 ○初めは3歩の短い助走距離からの跳躍。 徐々に5歩～7歩と助走距離を長くし、自分にあった助走距離をきめる。 ○助走のリズムを崩さないように走る。 ○最後の3歩は「タ・タ・タン」のリズムで走り込む。
踏み切り	○足の裏全体で「パン」と音を鳴らすように、片足で地面を強く踏み切る。
空中動作	○上体をよく伸ばして跳び上がりひらがなの「ん」の形をめざす。
着地	○膝を曲げて両足で着地する。

図2 動きの指導ポイント

(3) 学び合いの工夫

- ① グループ内で役割を決める。(記録、観察、得点計算等)
- ② ワークシート、動きのポイントの掲示資料を活用する。
- ③ グループ対抗幅跳び競争の場中に友だちの跳ぶ動きを観察させて練習の場で活用する。

6 単元の評価規準

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
①幅跳びの学習に進んで取り組もうとしている。 ②きまりを守り、友達と励まし合って練習や競争をしようしたり、勝敗の結果を受け入れようしたりしている。 ③協力して準備片付けをしようとしている。 ④運動する場や用具の使い方等の安全を確かめようとしている。	①幅跳びの動きのポイントを知るとともに、自分の力に合った課題を選んでいる。 ②幅跳びの動きを身に付けるための練習の仕方を知るとともに、自分の力に合った練習方法や練習の場を選んでいる。 ③仲間との競争の仕方を知る。	①短い助走から調子よく踏み切って遠くへ跳ぶことができる。

7 単元の評価計画

段階	時間	主なねらい・学習計画	評価規準			教師の指導・支援
			関	思	技	
はじめ なか 本 時	1	1 オリエンテーション (1) 幅跳びのイメージをつかむ。 (動画…6年生, 卒業生, 世界記録保持者, 紙テープ…実際の記録長さを見せる。) (2) 学習の流れを知る。 (3) グルーピング (4) 約束の確認 2 基本的な動きづくり運動 (準備運動)	①			○幅跳び学習への意欲をもたせる。 親近感のある身近な小学生や卒業生の動画を活用する。 ○学習の流れを掲示する。(準備・片付けは全員で行う) ○友達関係や記録が均等になるように気をつける。 ○砂場が狭いので安全面には十分気をつけさせる。 ○運動経験に関係なく, だれにでもできる簡単な動きやゲーム 感覚の運動をさせる。
	2	1 元気よくあいさつ		②		○健康観察を兼ねる。 ○運動経験に関係なく, だれにでもできる簡単な遊びやゲーム 感覚の運動をさせる。
	3	2 基本的な動きづくり運動 (準備運動)		②	①	○動きのポイント確認
	4	3 グループ対抗競争		③		1 「タ・タ・タン」助走(スピード・リズム) 2 「パン」と力強い片足踏み切り 3 「ん」を意識した空中姿勢 4 膝を曲げて両足着地
	5	4 結果発表&練習課題		②		○競争での勝敗を受け入れさせる
	6	5 グループ練習		①		○競争で気づいた課題をグループでアドバイスしあえる雰囲気 をつくる。
	7	6 感想記入・振り返り		①		○できたこと, がんばりたいことを記入し次時のめあてにさせる。 ○振り返りの中で, 各グループで頑張った児童を紹介する。 ○次時への見通しを持たせる。
7	7 元気よくあいさつ					
まとめ	8	1 基本的な動きづくり運動 (準備運動) 2 「幅跳び大会」 3 感想記入・振り返り(まとめ)		②	①	○運動経験に関係なく, だれにでもできる簡単な運動やゲーム 感覚の運動をさせる。 ○これまでの成果を発表する場にする。 ○競争, 動きのポイント習得について単元を通して振り返りを させる。 ○まとめの中で, 運動の楽しさに触れたことを実感させる。

8 単元の指導計画

1	2	3	4	5	6	7	8
オリエンテーション	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 基本的な動きづくり運動 ・ラダー ・ミニハードル ・ケンケンパ ・大股ジャンプ ・川跳び ・ロイター板跳び ・目標タッチ ・踏み台からジャンプ </div>						
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 競争型 ねらい1 グループ対抗幅跳び競争の場 </div>						幅跳び大会
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 達成型 ねらい2 動きのポイント練習の場 </div>						
学習カードの記入 感想発表 次時の説明							まとめ

9 本時の指導（5／8）

(1) 本時の目標

幅跳び競争を楽しみ、自己の課題解決に向けて意欲的に活動することができる。

(2) 授業仮説

- ① 幅跳びの動きにつながる基本的な動きづくりの場を設定することで、楽しく活動することができるであろう。
- ② グループ対抗で競争を行うことによって、幅跳びを楽しむことができるであろう。
- ③ 自分のめあてにあった動きのポイントを実践することによって、意欲的に活動することができるであろう。

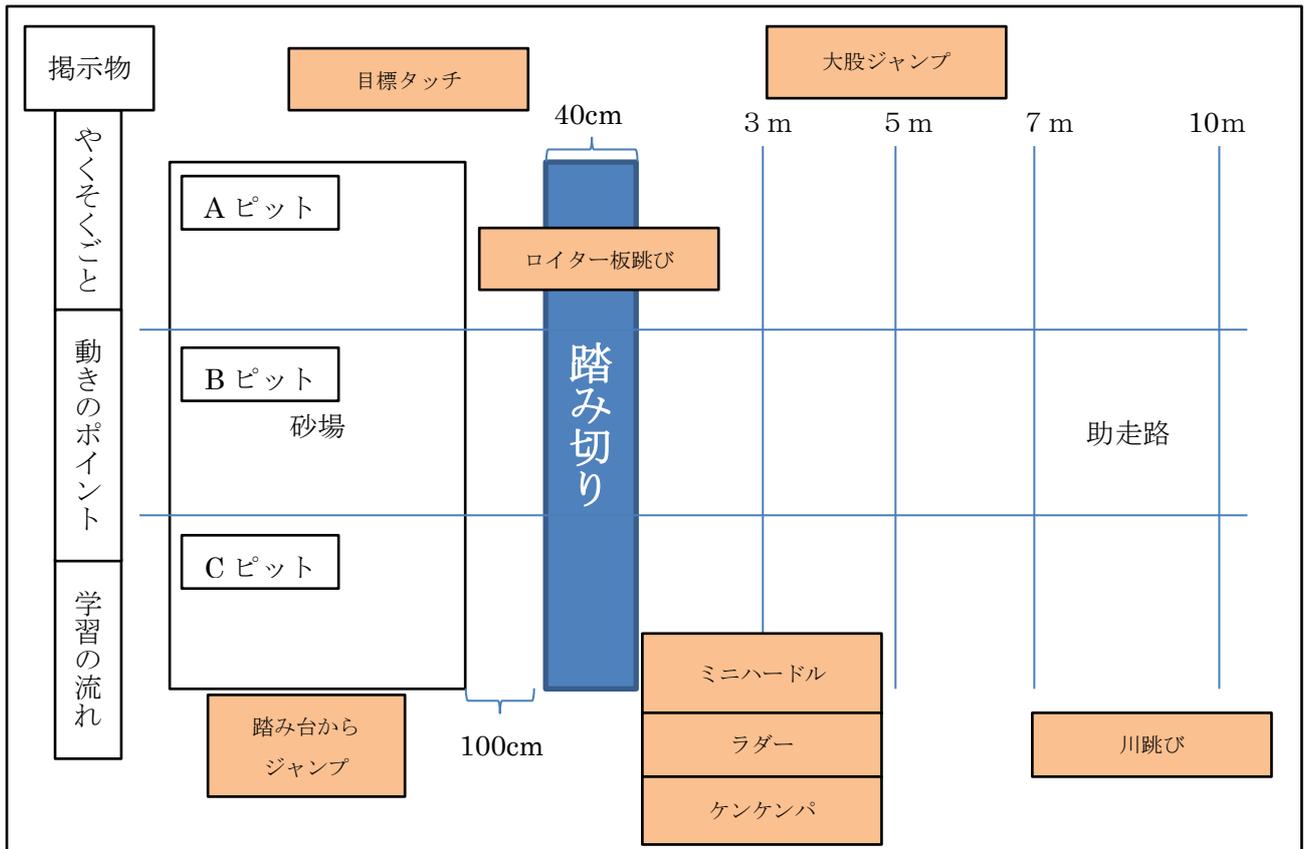
(3) 準備物

- ・ 掲示物（学習の流れ資料，約束事，指導のポイント） ・ ビブス ・ CD ラジカセ
- ・ 動きづくり運動（ラダー，ミニハードル，ロイター板，ケンステップ，ポートボール台）
- ・ 幅跳び競争の場（白旗） ・ 練習の場（皿コーン 手作り目盛り） ・ ワークシート

(4) 展開

	主な学習内容・活動	○教師の働きかけ	評価
導 入 7分	1 集合整列あいさつをする。 2 基本的な動きづくり運動 	○健康観察を兼ねる。 ○幅跳びの動きにつながることを確認する。 （BGMの流れている約5分間）	
展 開 30分	3 今日のめあて確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 協力して競争を楽しみ、考えて動きのポイントを身に付ける練習ができる。 </div> 4 グループ競争 	○役割を分担し、協力して活動させる。 （記録，観察，得点計算等） ○グループ競争で気になったポイントをあげさせ、練習課題を見付けさせる。 ○動きのポイント確認 1 助走（スピード・リズム）「タ・タ・タン」 2 力強い片足踏み切り「パン」 3 「ん」を意識した空中姿勢 4 膝を曲げて両足着地 ○結果は相手のことも考えて受け入れさせる。 ○練習課題を設定させる。 ○グループ競争で課題になったポイントをアドバイスしながら練習させる。	思考・判断② 技能①
	5 成績発表 6 課題の設定 7 グループで練習		思考・判断②
ま と め 8分	8 感想記入振り返り ・感想交流を行う。 9 元気にあいさつ	○振り返りをし、次時の目標を持たせる。 ○数名発表させる。 ○次時への見通しを持たせる。	

10 場の設定



11 授業仮説の検証

本時の授業仮説について、児童のワークシートの記述や自己評価・感想、授業観察に基づいて考察する。

(1) 幅跳びの動きにつながる基本的な動きづくりの場を設定することで、楽しく活動することができたか

曲を流している5分間、基本的な動きづくりの場に8つのコーナーを設定し、5人グループで好きなコーナーからスタートさせた。時間いっぱい、夢中になってグループで楽しく活動する姿が見られた。また、資料1のように、多くの種目を時間いっぱい使って楽しんでいる等の感想が多く見られた。このことから、基本的な動きづくりの場は、児童の活動量の確保と活動したい欲求を引き出し、楽しさにつながると考えられる。

いろいろなうんどうができてたのしかった。
 時間がみじかかった。
 曲が流れるなかで、グループの仲間が目まぐるしく楽しかった。

資料1 児童のワークシートより

(2) グループ対抗で競争を行うことによって、幅跳びを楽しむことができたか

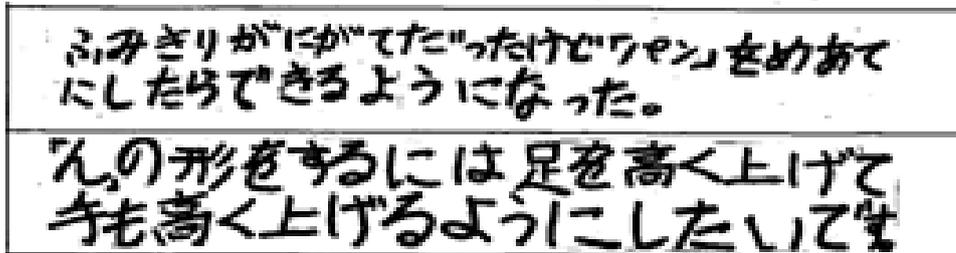
児童は、幅跳びを行うグループと記録を測定するグループに分かれて活動し、跳ぶ順序を自分たちで決め、元気よく合図をし、幅跳びを行い、測定をするグループは、自分たちで役割を分担して安全に気をつけ記録測定を行う等、意欲的に活動する姿が見られた。

しかし、結果を判定する場面では、記録をcmで表したため、3桁の和や差を求める計算に時間がかかり、勝敗の楽しみよりも計算に集中している姿が見られた。このことから、勝敗の決定が簡

単で、分かりやすいルール of 改善が必要だと考える。

(3) 自分 of めあてにあった動き of ポイントを練習することによって、意欲的に活動することができたか

自主的に設定した動き of ポイントを明確に意識し、その課題に向かっ て、何度も何度も練習する姿が見られた。資料2のように幅跳び of 動き of ポイントができたことによっ て、児童 of もっと跳びたいという欲求と、めあて達成 of 意欲につながっていったと考えられる。



資料2 児童 of ワークシートより

V 研究 of 結果と考察

研究 of 考察は、事前・事後 of アンケート、ワークシート of 記述や自己評価・感想等を活用して行う。

1 基本的な動きづくり of 場を設定し、幅跳びにつながる基本的な動きを体験させることで運動に親しむ資質や能力 of 基礎が育ったか

基本的な動きづくり of 場では、8つ of コーナーを設置し、グループ単位で活動することが出来るようにした。体育意識アンケートでは、「基本的な動きづくり of 運動が好きですか」 of 問いに対して、「好き・どちらかという と好き」と96%が答え、「嫌い」と回答した児童は一人もいなかった(図1)。

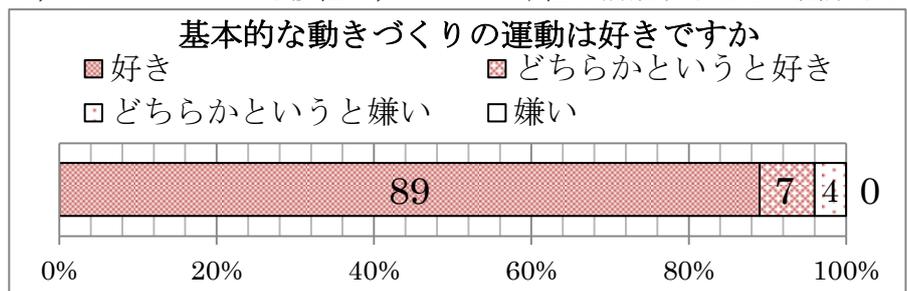
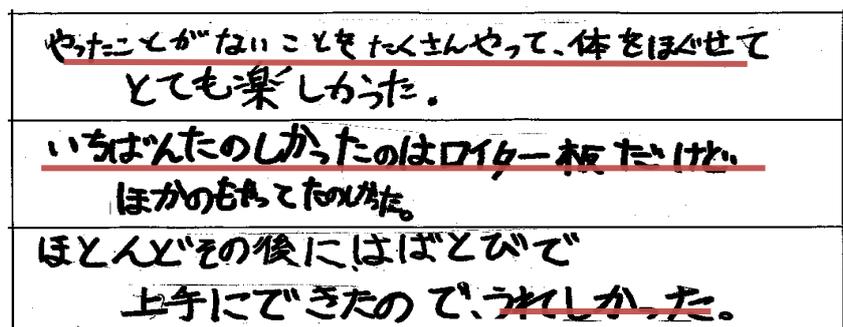


図1 体育意識アンケート

ワークシートには、やったこと of ない動きを楽しんだり、ロイター板跳びでふわっと体が浮き上がる感覚を楽しんでいたり、楽しみながら運動に親しむ様子が記述されていた(資料3)。

以上 of ことから、基本的な動きづくり of 場を多くの場を設定したことで、児童 of 幅跳びに対する興味・関

心が高まり、意欲的に活動し、その活動が幅跳び of 動きにつながったことを実感できたことにより楽しさにつながったと考えられる。



資料3 児童 of ワークシートより

2 ステージ型の学習過程を設定し、幅跳びの楽しさである競争と動きのポイントを身に付けさせ、達成感を味わわせることで、運動に親しむ資質や能力の基礎が育ったか

(1) 競争型について

「競争することは好きですか」の質問について、授業の事前と事後に大きな変化は見られなかった(図2)。今回の競争のルールの設定は、どの児童に対しても活躍のチャンスを持たせることをねらい、個人差が顕著に表れないようにしたが、計算に時間がかかることによって、勝敗の期待感が薄れ、楽しさにつながらなかったと考えられる。

このことから、個人差に配慮しつつも、勝敗判定が簡単な方法を活用しなければ、競争の楽しみを感じられないと考えられ、競争型のルール設定に課題が残った。

(2) 達成型について

資料4は、ある児童の振り返りでの感想である。第2時では、踏み切り時に両足ジャンプでしか跳べず、第2時、第3時では、踏み切りがうまくできないことに課題を感じ、第3時、第4時と進んでも踏み切りをめあてとして動きのポイント練習に取り組んでいた。第4時では、片足踏み切りができた喜びが記録されている。また、次へのめあて、「空中姿勢をがんばる。」を持つことで幅跳びの動きのポイントを意識した意欲の高まりがみられた。第5時では、助走を工夫し、課題を解決するための試行錯誤の様子がみられる。このように、多くの児童のワークシートには、めあてを持ち、振り返りを行い、動きのポイント達成に向けてがんばりたい意欲が記録されていた。このことから、動きのポイントを示し、自己のめあてを設定させ、課題を解決していくことで、意欲が高まったと考えられる。

「幅跳びの学習は好きですか」と質問したところ、「好き」だと答えた児童が、事後アンケートでは32ポイント増加し、52%となった(図3)。これは、基本的な動きづくり運動で楽しく体を動かしたことと達成型での動きのポイントを身に付けたことで満足感が高まったからだと考えられる。また、事前調査と比べて記録が145cmも伸びた児童がいた(図4)。これは、踏切が両足ジャンプだった児

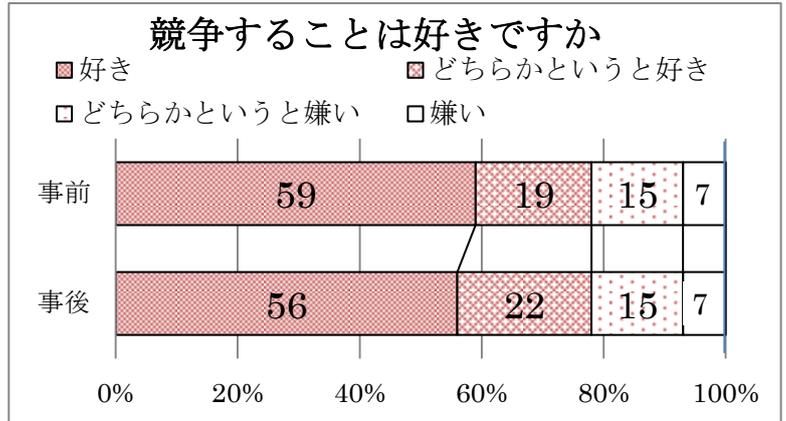


図2 体育意識アンケート

1時	ビデオを見て、はばとびをはやくやりたいと思った。
2時	きほんの運動がたのしかった。 <u>ふた足でふみきるのができてよかった。</u>
3時	<u>かた足でふみきるのがとてもむずかしい</u> かった。
4時	<u>かた足でふみきりができてとてもうれ</u> しかった。次は空中しせいをがんばる。
5時	<u>じやうをくふうした</u> 5mから7mにのびた。きろくものびた。

資料4 児童のワークシートより

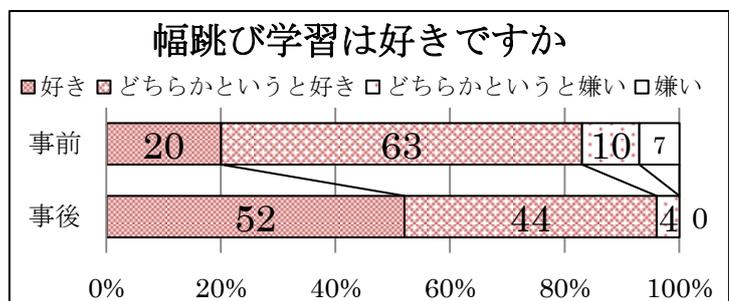


図3 体育意識アンケート

童が、動きのポイントを練習していくうちに、片足ジャンプで跳べるようになり、技術の習得が記録の伸びにつながったのではないかと考える。授業まとめの感想発表の場では、記録の伸びを発表する児童も多くみられ、記録を意識することで、自分の力を知り、意欲を高められたことも結果としてみられる（資料5）。

(1)(2)より、ステージ型の学習過程は、競争型では、楽しく活動ができたものの勝敗がわかりにくいという課題があった。達成型では、自己の課題を解決していくことで意欲を持たせて活動させることができた。

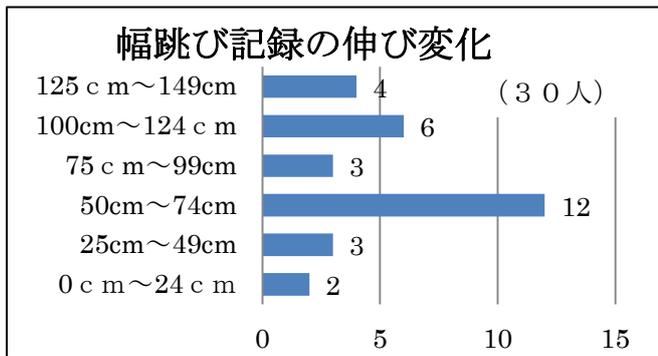
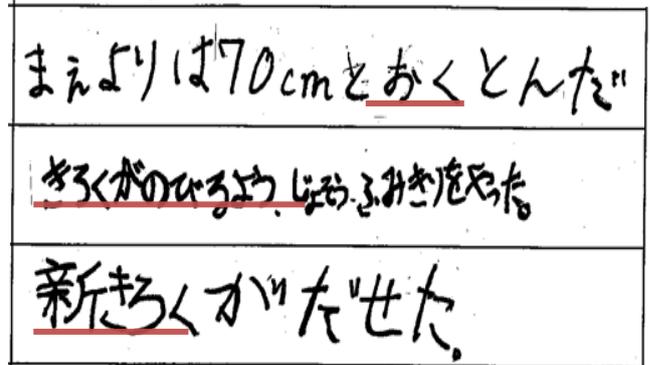


図4 事前調査からの記録の伸びの変化



資料5 児童のワークシートより

VI 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 幅跳びの動きにあった、基本的な動きづくり運動の場を設定することで、運動への関心を高め、自ら運動する楽しみを持たせることができた（V1）。
- (2) 動きのポイントを身に付ける場では、動きのポイントを明確にすることで、児童が自主的に課題を設定し、解決にむけて練習することができた（V2(2)）。

2 今後の課題

- (1) ステージ型での競争の場における、勝敗の可視化と簡素化をする方策（V2(1)）。
- (2) 基本的な動きづくり運動において、別の種目での運動の特性を考慮した場づくりの考案。

【主な参考文献】

宇土正彦 監修 阪田尚彦・高橋健夫・細江文利 編集

『学校体育授業事典』

大修館書店 1995年

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 体育編』

東洋館出版社 2008年

藤野良孝 『「一流」が使う魔法の言葉』

祥伝社 2011年

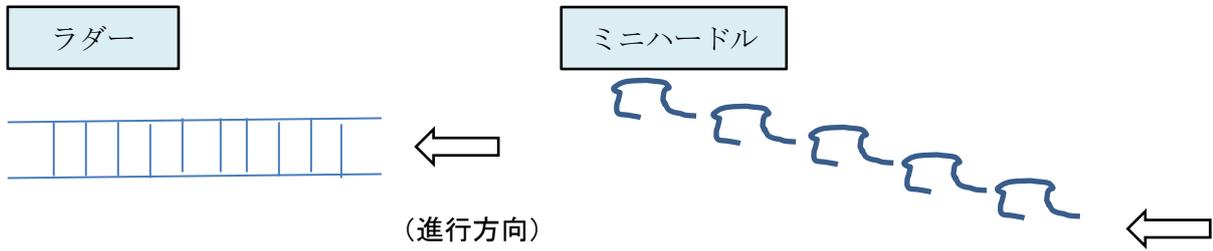
細江文利・池田延行・村田芳子 編著

『新版体育の学習3年』

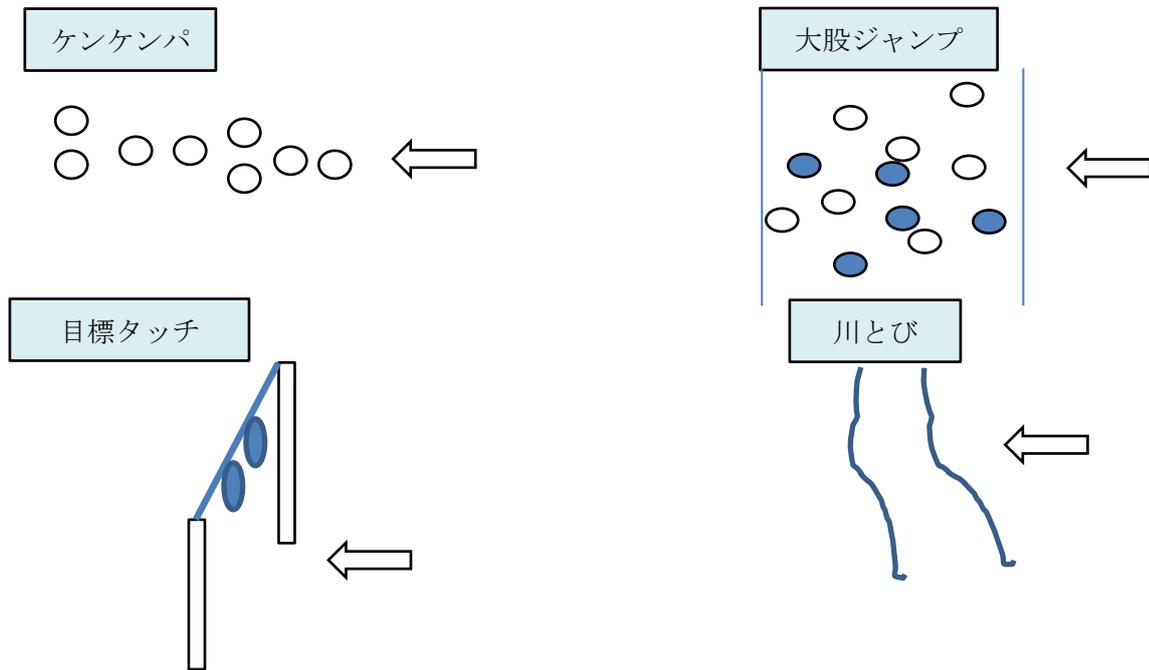
光文書院 2012年

検証授業において、基本的な動きづくりの場を設定し、幅跳びにつながる基本的な動きを体験させるために行った運動を資料として掲載する。

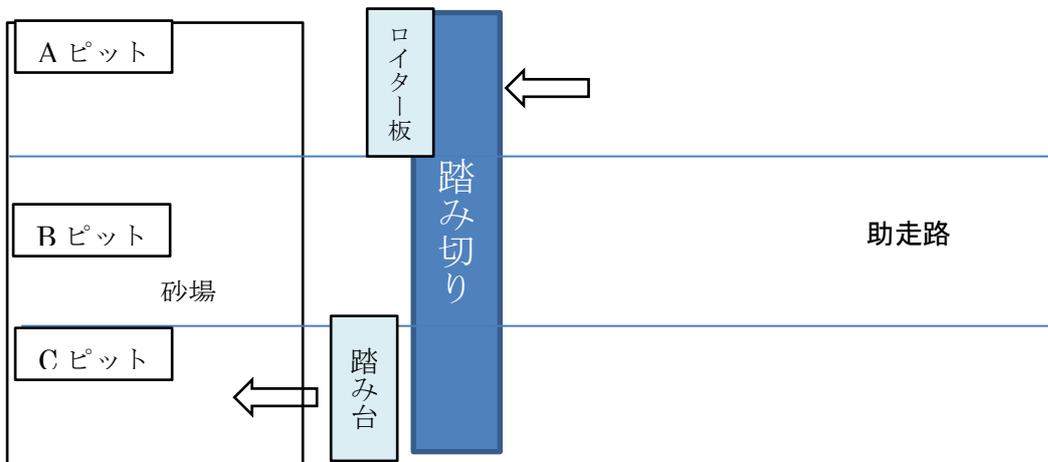
〈走る動き〉



〈走ってきて踏み切る動き〉



〈ふわっと体が浮き上がる感覚体験〉



〈空中姿勢〉